重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要な まちづくり の課題 (めざすべき姿)	まちづくり の課題 市民が国際感覚を身につけている		年度 責任部長 主担当課長	平成27年度 教育文化部長 生涯学習課長
施策名	国際交流を推進する	No.50	関係課	学校教育課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標		現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
	方向	H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
国際交流事業への参加者数(人)	7	35,752	33,079	40,654	41,138	39,135	40,283	32,923
国際父仇争耒への参加有数(人)		40,283	40,896	39,333	42,239			41,050
学校などでの国際交流事業の実施数(回)		486	517	453	432	471	508	526
子仅などの国际文侃争未の天旭奴(四)		508	502	560	582			568
外国人の一宮市に対する好感度(※好感度を5点満点で評価)	7	4.0	3.8	3.7	4.0	3.9	3.9	4.2
プト国人の一音川に対する好感及(AS好感及で3点個点で評価)		3.9	4.3	4.2	4.2			4.4

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間·NPO活動等)

- ・定住する外国籍市民は、ほぼ横ばいの状況であるが、依然として外国籍の子どもに対する日本語教育の機会の提供が課題である。
- ・地場産業が繊維関係であることから、中国籍外国人などの研修生の占める割合が依然として高く推移している。
- ・東日本大震災以降、海外からの日本への渡航者が減少していたが、徐々に回復傾向にある。
- ・市民と外国籍市民が地域で共に暮らしていくための多文化共生事業が必要になってきている。
- ・平成25年1月30日に一宮市とイタリア共和国トレビーゾ市が友好都市を結んだことにより、市民の海外への関心が高まっている。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価



改善傾向

国際交流事業への市民等の参加者数は、ここ数年は4万人前後で推移していたが、今年度は4万2千 人ほどに増加した。今後とも、より魅力ある事業展開をして目標値の達成を維持していきたい。学校など での国際交流事業の実施数は、幼稚園、保育園での実施数が増加しており、目標値を達成している。 国際交流事業の提供機会を増加させるなど、更なる充実を図り目標値の達成を維持していきたい。好 感度は目標値を若干下回る水準で横ばい傾向であるが、目標達成可能な水準であり、今後とも多文化 共生事業の充実を図ることで目標値を達成したい。

● 評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	③) 長期成果(事業群④)				
1 長期战甲は垂亜かる		 歩手並の比能しなっており エレか/	ダブリカノ設定されているか				
1 344曲を1 白 1			グラグなく政定されているか。				
2. 谷事業群の事務事業	とは、長期成果を達成するのに必要・ のに必要・ のにのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのは	「方であるか。					
評価							
次年度の							
改善計画							

総合計画推進市民会議による現状評価(※総合計画推進市民会議が発表した「重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の評価書」から転記)

改善傾向

各指標とも順調に推移しており。目標値を達成できそうである。学校での国際交流事業への取組の多さ も、外国人からの好感度の高さに繋がっているのではないか。